



東京地区生コンクリート協同組合
〒103-0027東京都中央区日本橋3丁目2番5号
電話番号 (03)3271-2181
URL:https://www.t-namakyo.jp/
発行責任者 高村 尚

＝協組の動き＝

(12月)

7日(月) 理事会(No. 1136)
21日(月) 理事会(No. 1137)

(2021年1月)

12日(火) 理事会(No. 1138)
25日(月) 理事会(No. 1139)



コンクリートを喰らう

皆様ご存知のとおり一見どれも同じに見えるコンクリートにも、普通、寒中、暑中、軽量、ダムなど色々な種類がありますが、なんと食べられるコンクリートがお目見えしています。

食品メーカーの大東食研株(本社東京都)が売り出した、その名もずばり「コンクリート風ソース」。見た目は灰色で、どろりと固化前のコンクリートそのもの、味も・・・とはさすがにいきませんが、極く普通に美味しいと好評。新型コロナウイルスの逆風下でも、内食が増えたせいか売上も通販などを通じて上々とのこと。

訳知り顔でコンクリートは固体じゃないの、とツッコミもあるようですが、今のところ「生コンクリート風ソース」に改名する予定はないとのこと。一度はコンクリートで美しく彩られたトンカツを喰らうのが生コンに携わる者の務めかと思いを巡らせています。

登録販売店会議開催

市況対策の説明および安定納入のための連携強化を要請

11月4日(水)に32社59名の参加を得て鉄鋼会館において登録販売店会議を開催しました。なお、開催にあたっては、三密を避けるなど感染拡大防止対策を実施しました。

今回の会議では営業委員長による市況対策に関する説明に続き、営業部、調整管理部及び技術部各部長による登録販売店、協組間における取り決め事項についての再確認が行われました。

市況対策については、協組納入エリアの現状として今後の出荷展開、骨材価格の上昇の現状、アジテータ車の保有台数及び運搬能力更にはアジテータ車運転手の年齢構成に加え、納入予定キャンセル及び納入予定直前変更の発生推移、戻りコン・残コンの発生推移を説明しました。

今後の旺盛な出荷展開並びに運搬能力が低下していることを踏まえ安定納入の観点から納入予定直前変更を減少させるため需要家、デリバリ店、工場(協組)の三者の連携強化を要望しました。また、工場として大きな負担となっている残コン・戻りコンについては環境保全の面からも削減が不可欠である旨、報告しました。最後に本年4月1日引合受付分からの生コン価格の値上げ1,000円/m³の確保を強く要請しました。

営業部においては、

- 1、員外物件報告書の取扱方法変更(TD掲載)
- 2、納入準備会の開催要領(TD記載)
- 3、工事完了確認リスト(3ヵ月以上未



【斉藤理事長】

出荷物件)対応(3ヵ月毎デリバリ店へfax)

調整管理部においては、

- 1、今後の予定把握の在り方(登録販売店会議資料)
- 2、売上エラーの撲滅について「生コン出荷依頼時の工場契残確認の徹底」(登録販売店会議資料)

技術部においては、

- 1、技術幹事会社(工場技術責任者)の技術確認事項の作成順守要請(TD記載)
- 2、異常天候時の出荷対応(HP・TD記載)
- 3、圧縮強度試験の遠隔臨場(登録販売店会議資料)

の報告が行われました。(注:HPは東京協組ホームページ、TDはトラックレコードデータ提供システムを表す)

以上の報告は安定納入等に向け重要な事項であることから、販売店内における営業最前線の皆様に再徹底をお願いしました。

今後とも登録販売店会議における意見交換等を活かし、安心で高品質な生コンの安定供給に努めてまいります。

《限りある資源》

篠崎 勉



もうじきあの大災害から10年が経とうとしています。東日本大震災です。

殆どの方は直接ないし間接的に、大変な経験やご苦勞をなさったことと思います。

私が今思うのは、あの時の“節電”はどうなってしまったのだろうかです。

津波による福島原発事故により、節電を余儀なくされました。計画停電、間引き点灯やコンビニを始めとして店舗の看板照明消灯など、節電に努めて日本全体が暗くなりました。

私はあの日の夜、関連会社にて煌びやかな銀座方面を見ていましたが、数日後から思いもよらない節電が始まり、あの雰囲気が一変してしまいました。

現在ではどうでしょう、街並みは煌々と明るく、無駄だと思われる照明があちらこちらにあり、これらに使用される電力は火力発電を主にしていることを考えると、石炭などの限られた資源が無駄に使われているように思えてなりません。

当社は工場を新設した際、照明

類はLEDを使用して電力使用量を抑え、事務所内の照明は人感センサーにより、消し忘れを防止しています。このような設備に頼ることも必要だと感じます。

限られた資源を無駄にしないという点で、私たちが製造、販売している生コンクリートに目を向けると、当協組では無駄コン(残・戻りコンクリート)が出荷量の3~6%にもなっている状況です。業界では啓蒙活動や有償化などの対策を行っていても、中々減少しない現実があります。

コンクリートの世界では、低炭素が取り沙汰されていますが、無駄コンの削減、回収水や回収骨材の利用など、環境対策として取り組むべき課題はまだあります。

いずれにしても、様々な対策を講じて資源の無駄を削減し、将来の地球環境をより良い方向に向かわせ、私たちの子孫が笑顔でいられるように取り組まなければならないと日々思っています。

(内山コンクリート工業(株) 常務取締役)

	(出荷数量)				(引合、成約、契残)	
	11月(実績)		12月(想定)		11月(実績)	
	前年比	前年実績比			前年比	
大型	158,491 m ³	84.3%	180,000 m ³	114.3%	引合	130,380 m ³ 118.5%
小型	25,505 m ³	80.3%	30,000 m ³	96.7%	成約	111,510 m ³ 116.8%
計	183,996 m ³	83.7%	210,000 m ³	111.4%	契残	4,006,635 m ³ 161.3%

2020年の主な出来事

この1年を振り返るにあたり、何はさておき新型コロナウイルスに翻弄された1年でした。当協組においてはこれまで皆様のご協力により幸いにも常勤者及び関係者には感染者が発生しておりません。今後も対策を徹底し、感染者ゼロの状況を維持して参りたいと思います。

(1)新型コロナウイルス感染防止対応

1月24日に東京都内で初めて新型コロナウイルス感染者が確認されましたが、当協組としての本格的な取り組みは2月21日付けの理事長名で予防対応の注意喚起を発信したことにより始まりました。

以降、当協組事務所内における感染防止の為に以下のとおり職場環境の整備を実施しております。

- ① 消毒液・マスク等の常備
- ② 空気清浄機の設置
- ③ 執務机及び面談ブースへの透明アクリル板の設置
- ④ 会議室内の座席配置の見直し

(利用人数制限とソーシャルディスタンスの確保)

また、現在までの間に実施された行政(政府・東京都)による新型コロナウイルス対応と当協組の業務執行対応の変遷については下表のとおりとなっております。

(2)ホームページでの情報発信

昨年4月に立ち上げ、協組からの情報発信と生コン業界のイメージアップに役立っています。

まず、協組からのニュースとして、販売価格やキャンセル料の改定、自然災害時の供給状況、GWや年末年始の休業予定、新型コロナ対応、など幅広い内容をタイムリーに掲載しました。

その他に「まど」のカラー掲載、生コン動画や残コン・無駄コン削減リーフレットの紹介なども盛り込み、視覚に訴え、より分かり易くより興味を持って頂けるような内容を目指しています。今後も内容の充実と更新のスピードアップに努めて参ります。

(3)各ワーキングの活動

・働き方改革WGでは完全週休2日制導入について導入迄の課題を洗い出し、実施までの工程表を確定しました。また、コロナ対策としてのリモートでの理事会や強度試験の遠隔臨場を試行中です。

・IT推進WGでは各種基本方針を制定済みです。

・女性活躍推進WGでは組合員女性従業員へのアンケートに基づき実態把握と具体的な提言を取りまとめ、組合員各社へフィードバックしました。

・6月には生コン需要漸減への取り組みとして新たに構造改善対策WGを設置しました。早速、8月末に「工場集約化事業規程」を見直し、協組内でブロックを跨る集約化容認の明確化や集約支援策の拡充を盛り込みました。今後は更に、「集約化モデル」の作成に取り組むこととしています。

【行政の新型コロナウイルス対応と当協組の業務執行対応】

時期	政府・東京都の対応	当協組の業務執行対応
3月	「3密(密閉・密集・密接)回避の行動指針発信」と「不要不急の外出自粛要請」	—常勤者の出勤体制の主な変更点— ① 時差出勤の奨励(10時～15時のコアタイム設定)→継続実施中 ② 在宅勤務と事務所出勤の交代勤務体制
4月～5月	「緊急事態宣言」発出(東京都は4月7日～5月25日)	① 理事会を含む定例諸会議の集合開催見合わせ(書面報告) ② 第44回通常総会の書面開催実施 ③ 工場往訪出荷監査実施見合わせ
6月	「東京アラート」発出	定例諸会議の集合開催を段階的に再開
7月	感染防止と経済再生の両立志向による施策展開 —「GOTO トラベルキャンペーン」受付開始—	・定例諸会議の集合開催再開 ① 理事会・常任理事会(従前頻度で開催) ② 営業・技術関係諸会議(頻度引下げ or 人数制限) ・工場往訪出荷監査実施再開(頻度引下げ)
8月～9月	感染防止と経済再生の両立	常勤者の「時差出勤」比率を感染者の動向により都度調整して実施継続
10月	同上	常勤者の「時差出勤」の実施を一旦停止
11月～	東京都「感染警戒レベル4」へ引上げ	感染拡大が顕著になったことから、常勤者の「時差出勤」の実施を再開

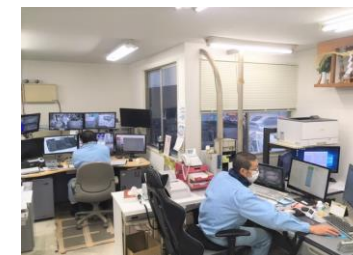
わが社のイメージアップ

神奈川菱光 コンクリート 株式会社



『神奈川菱光コンクリート(株)』は、神奈川県川崎市の臨海部に位置する芦沢商事グループの一員で、東京、川崎、横浜の3つの地区を供給エリアとし、工場長以下社員9名で生コンクリートを製造、出荷しております。少人数ならではの仲の良さチームワーク、それに加えて少数精鋭と誇れるほどの作業効率。しかし、最初から全員の能力が高いというわけではありません。『オールマイティな人材を育てる』という我が社の方針によるものであり、また、この点が我が社のイメージアップ活動に繋がることと思ひ、今回ご紹介させていただきます。

我が社のこの方針は、『多能化』と『製販一体』という二つの柱によって支えられております。まず、『多能化』について説明させていただきます。我が社では社員9名全員が技術課、製造課、業務課全ての課を担当できるようにしており、これこそが『オールマイティな人材を育てる』一つの要素となります。まだまだ未熟な点はございますが社員一同様々な力量の向上に努めております。また、我が社の系列工場でも『多能化』人事交流を行い、信頼し



ているからこそその連携によって、さらなる作業効率アップを図っております。そして、製造するだけではなく自分が営業までもする気持ち、つまり『製販一体』を意識した取り組みも『オールマイティな人材を育成する』一つの要素になっていると考えております。全社員が三つの課をこなしたうえ、顧客の立場に立った精神で生コン供給に取り組んでおり、少人数という一見欠点にもなってしまいそうな点をそれぞれの努力と高いモチベーションでカバーして『生産性向上』に努めております。もちろん製造技術には申し分なく、顧客のご希望に添えられるよう新技術の研究と開発を念頭に、最大限の努力で取り組んでおります。また、安全作業の推進や納期の確保に十分に留意しており、製品の長期的信用確保を維持することができていると思っております。

地域社会貢献では、近隣のクリーンアップ作戦の定期的実施、地元小学校の工場見学受入などを行っています。

このように、我が社は明確な方針を定めた上で全社員が懸命に働きイメージアップ活動をしております。

当社ホームページ(<http://www.ashizawa-shoji.co.jp/>)にも企業情報が掲載されておりますので、ご興味のある方は是非ご覧ください。